

令和5年度 小平市立小平第十三小学校 学校評価報告書

学校教育目標 21世紀をたくましく生きる子どもたちを育てることを目指し、以下の教育目標を設定する。
 ◎自ら考え行動する子ども(重点目標)・仲良く助け合う子ども・明るく元気な子ども

目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 子どもたちのみならず、教職員、保護者、地域社会が、「自ら学び、他と共に」を共有し、自己の向上を求め続ける学校。
- 【目指す児童・生徒像】 自ら学び、他と共に生きる子ども
- 【目指す教員像】 自ら考え行動し、常に研鑽を積み、自己の向上を求め続ける教職員

前年度までの学校経営上の成果と課題

- 【成果】教職員が一丸となって「健全育成」と「児童理解」に取り組んできたことにより、児童にとって居心地のよい学級・学校を実現できた。
- 【課題】基礎的・基本的な学力の定着及び、知識や技能を活用し、学習者用端末を有効に活用しながら工夫して課題解決を行うことで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 成果・課題・次年度以降の対策 |
|-------------|---|-------|------|---|-------|------|--|---|
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | ①ホワイトボードの活用 ②児童が相互に学び合い高め合う授業の日常的な実践 ③学習者用端末を中心としたICT教育機器の活用と研修の充実 ④授業アンケートの実施 ①学習補助員の活用と個別指導 ②東京ベシック・ドリルの活用 ③習熟度別によるきめ細かい算数科の指導 ④家庭学習の実施と充実(低学年30分 上学年10分×学年) | 3 | 3 | 年度当初に、授業規律やホワイトボードの活用について周知したことで、浸透している。ペアグループでの話し合い活動を授業の中で取り入れることで、児童同士の意見の交流が活発に行われた。資料の提示、児童の考えの共有など、様々な場面で学年の実態に応じて学習者用端末を活用できている。毎週金曜日の朝学習の時間に、東京ベシックドリルや学習アプリ活用し、計算問題に取り組んでいる。診断シートを2年生以上の学年で学期ごとに実施し、学力の定着度を把握し、算数の授業改善に生かしている。 | 3 | 3 | 先生方が目標をしっかり持って取り組んでいるのが分かります。 ・校内研究の授業参観、協議会への参加を通して、先生方が児童の実態に応じて教材研究をしていること、6学年を通じた教育を意識して指導されていることが分かりました。 ・3人グループでの話し合いを頻繁に行っていて良いと感じた。 ・算数の少人数授業も、他の全員で行う授業より子ども達が落ち着いて授業を受けることができていた。 | ・ホワイトボードを活用し、児童が見通しをもって学習に取り組むことができました。 ・「背・目・手」「はい・立つ・です」などの授業規律については、学年の実態に応じて実施し、効果があった。 ・毎週金曜日の朝学習の時間に、帯で東京ベシックドリルや学習アプリに取り組むことで、学習の方法が身に付き、基礎学力の向上に繋がった。 ・長期欠席者に対するオンライン授業や様々な学習アプリの導入など、学習者用端末を活用することができた。家庭への持ち帰りを実施し、児童だけでなく保護者への連絡ツールとしても効果があった。 ・習熟度別算数指導の実施し、学習ボランティアの活用により、理解が不十分な児童や個別に支援が必要な児童に対して、必要な助言や支援を行うことができた。 |
| 健全育成(いじめ防止) | ①ふれあいアンケートの実施と分析 ②いじめ防止にかかわる道徳授業の実施(年3回以上) ③いじめ防止校内委員会の充実 ④生活のきまりの活用 ⑤あいさつ運動の実施 ⑥サポート会議の活用 ⑦委員会・クラブ・たてわり班活動の充実 ⑧年間2000回以上の学校ホームページ更新 | 3 | 3 | ふれあい月間のアンケートの結果から課題を把握し、学校全体でいじめ防止に取り組んできた。細かい事案にも早期対応、解決が図られている。学期始めや保護者会の際に「生活のきまり」を児童・保護者と確認し、校内での過ごし方や持ち物の共通認識を図ってきたことで、児童は落ち着いて生活できている。代表委員会を中心にあいさつ運動を実施し、朝だけでなく、様々な場面であいさつをするように指導している。週に1～2回以上学年のホームページを更新し、学校の様子を発信している。 | 3 | 3 | ・一人一人の子どもを大切に、様々な取組をしています。 ・子どもクラブで子ども達と接していると、少し気になる子どもも出て来たりするので、そのような児童の情報交換ができると良いと思います(特別支援教育も同様)。 | ・生活のきまり「十三小の約束」や使用する学用品の一覧を年度初めや保護者会の際に、学級指導したり保護者に伝えたりすることで、意識付けを図り、全校共通の取組として定着することができた。 ・放課後の出来事ではあるが、暴力を受けたり、数時間にわたり悪口や暴言を言われてきたことによる不登校となってしまったりする事案が発生した。ふれあいアンケートの実施はもちろん、普段の児童の様子をしっかり観察したり、学年を引き継ぐ際に児童の情報を細かく伝えたりする必要がある。 ・ホームページの頻繁な更新や学級通信を通して、保護者に児童の様子を伝えるとともに、学校の様子への関心を高めることができた。 |
| 特別支援教育 | ①特別支援教室の効果的運営 ②特別支援巡回指導の活用 ③個別指導計画の作成と活用 ④特別支援校内委員会の効率的な運営 ⑤こげら支援シートの活用 ⑥児童一人一人の正確な見取り ⑦「にだりこれだけは」に基づく環境の整備(ホワイトボードの活用、教室前面の掲示板等) | 3 | 3 | 巡回指導教員の授業観察の際に、通級児童のみだけでなく、気になる児童も多く見てもらい、必要に応じて個別指導計画を作成し、学校全体で情報を共有できるようにした。一人一人への組織的な対応を今後も継続する。必要に応じて特別支援校内委員会を実施し、話し合いの内容を生生活指導連絡会で報告することで、支援が必要な児童の情報の共有を図っている。 | 3 | 3 | ・特別支援の主旨を十分に理解して取り組んでいることが分かります。 ・支援が必要な児童について、校内の研修会や生活指導連絡会等で学校全体で共有できているのは良いと思います。 | ・学級担任、通級学級の教員、特別支援専門員、特別支援コーディネーターがこまめに情報を共有し、連携を図ることで、一人一人の児童に対するきめ細かい指導を行うことができた。 ・定期的な巡回指導により掲示物や個別支援の手立て等、授業改善に役立てることができた。 ・全学級で前黒板左右の掲示板に貼る掲示物を制限することで、児童が学習に集中することができた。 ・保護者の同意のもとに個別指導計画を作成し、目標に沿った指導を学級や特別支援教室で進めることができた。 ・児童理解研修会や校内での特別支援教育研修会を通して、支援が必要な児童の様子や対応の仕方に対して、共通認識をもつことができた。 |
| 体力向上 | ①休み時間の校庭での活動計画 ②なわとびやマラソンの実施と取組強化 ③裸足の運動会の実施に向けた取組の充実 ④体力テストの結果を基にした体育の指導の工夫 ①様々な感染症への理解と予防の徹底 ②「早起き、早寝、朝ご飯」の啓発活動 ③基本的な生活習慣の確立 ④栄養士と学級担任による食育の授業 | 3 | 3 | 休み時間に校庭に出ることを呼びかけるだけでなく、教員も積極的に児童と遊んだり、計画的に学級レクを実施した。コロナ禍が明け、校庭の使用場所の制限がなくなり、校庭で遊ぶ児童の姿が多く見られた。コロナ禍以前と同じように、なわとび旬間を実施することができた。3学期のマラソン月間も同じように実施し、児童の体力向上を図っていく。全校共通の給食指導や、栄養士との食育授業、出前授業などを通して、食の大切さを指導し、効果が上がっている。 | 3 | 4 | ・コロナ禍でも子どもたちの動きを大切にしている様子が見えてきます。 ・十三小は他校と比べると体育の能力が高い児童が多いので、これをさらに伸ばしていきたいかと思っています。 | ・学年による校庭使用場所の制限の撤廃、教員の積極的な校庭遊びへの参加、計画的な学級レクの実施などにより、校庭で遊ぶ児童が増えた。 ・コロナ禍以前と同じようなわとび旬間やマラソン月間を実施でき、体力の向上が図られた。 ・保健だよりや栄養士との食育授業、出前授業を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の定着や基本的な生活習慣の確立、食の大切さの理解へとつながった。 |
| ライブラリースタック | ①C4thの積極的な活用 ②月2回の定時退勤日の設定 ③教員の年次有給休暇の15日取得 ④教員の残業時間月平均55時間以内 ⑤管理職の積極的な休暇取得 ⑥副校長補佐の計画的・積極的な活用 ⑦スクール・サポート・スタッフの計画的・積極的な活用 ⑧働き方改革に向けた、教員自らの目標設定と実践。 | 3 | 4 | プリント配布を減らし、C4thを積極的に活用したことで、印刷時間の減少や情報の共有化、連絡会の時間の短縮につながった。学期内の会議の内容の精選・削減により、教職員が積極的に年次有給休暇を取ることにできた。スクール・サポート・スタッフを計画的に活用することで、ゆとりをもって教材研究や校務分掌に取り組むことができています。 | 3 | 4 | ・先生方が教材研究や生活を大事にしていること、そのための配慮が組織としてなされていると思います。 ・プリント類をストリームに上げるのは、家庭でのプリント紛失対策にもなり良いと思います。 | ・C4thや学習者用端末の積極的な活用により、連絡会の時間短縮、印刷等教職員の作業時間の短縮、予算削減につながった。 ・「自己申告書」にライフ・ワーク・バランスの取組に関する記述をすることで、教職員の働き方改革や業務の改善に対する意識を高め、残業時間の削減につながった。 ・会議の精選・削減により、多くの教職員が年次有給休暇の15日取得(クリアフィアーション)を達成できた。 ・スクール・サポート・スタッフの計画的な活用により、校内全体の作業時間の短縮につながった。 ・定時退勤日を設定できなかったため、来年度はきちんと予定に入れていく。 |